

2017 年 7 月 15 日

## 一般社団法人日本内視鏡外科学会

### 2017 年度（自 2016 年 10 月 1 日 至 2017 年 9 月 30 日）第 1 回理事会議事録

会員各位

日本内視鏡外科学会

☐開催日時 2017 年 4 月 5 日（水） 15：00～18：15

☐開催場所 ステーションコンファレンス東京 503 CD

☐理事総数 25 名

☐監事総数 4 名

☐出席理事数 22 名

☐出席監事数 2 名

☐出席理事の氏名

渡邊昌彦（理事長）、明樂重夫、池田徳彦、猪股雅史、岩崎昭憲、岩中 督、小澤壯治、金山博臣、北川雄光、坂井義治、塩田 充、徳村弘実、中村博亮、中村雅史、橋爪 誠、羽瀧友則、藤澤正人、森 俊幸、森川利昭、山口茂樹、山高篤行、渡邊聡明

☐出席監事の氏名

黒川良望、万代恭嗣

☐出席名誉理事長の氏名

北野正剛

☐議長の氏名

渡邊昌彦

☐決議事項に特別の利害関係を有する理事の氏名

該当する理事はいない

☐議事の経過の要領及びその結果

以下の通りである。

＊

定刻に至り、定款第 41 条に基づき渡邊昌彦理事長が議長席につき、開会を宣し、本日の理事会の開催及び議決に必要な定款上の定足数を確保し、本理事会が適法に成立した旨を告げ、議事が開始された。

1. 前回の理事会議事録が確認された。

2. 報告事項

・渡邊昌彦理事長より、各委員会の報告に先立ち、委員会編成について、特に今回は内視鏡外

科学会の目的の一つである内視鏡外科の安全な普及のために教育委員会を充実させ、各診療科の理事に教育の担当理事として参加いただき教育委員会を盛り上げていくこと、また教育委員会と技術認定制度委員会、Eラーニング検討委員会で連携し、ビデオクリップをEラーニングとして活用していけるよう今後取り組んでいくことが述べられた。

### 1) 編集委員会報告

#### (1) 日本内視鏡外科学会雑誌（渡邊昌彦編集主幹）

- ・中村雅史委員が副主幹に就任されたことが報告された。
- ・採用率が30%を切る状況であり、30%を切ると投稿数が減るという懸念があること、編集委員の先生方に査読に尽力していただき、30%の維持に努めていることが述べられた。

#### (2) Asian Journal of Endoscopic Surgery（北野正剛編集主幹）

- ・2017年7月より約1年間で引用数を4倍にしなければインパクトファクターの取得が難しいこと、インパクトファクター取得に向けたアクションプランを策定していることが報告された。
- ・ASESの活性化に向け、Task Forceを新たに設置することが報告され、メンバーとして各理事の所属機関より准教授を推薦いただきたい旨が述べられた。
- ・ガイドラインなどを含めた論文リストを作成し引用いただくよう、役員と評議員へ今後依頼していくことが説明された。
- ・坂井義治副理事長より、簡単に査読依頼を断る先生が多く、査読者がいつも限られていること、評議員を含め意識改革の働きかけが必要であるとの意見がなされた。

### 2) 総務委員会報告（藤澤正人委員長）

- ・若林剛委員長、武田正之委員の退任および藤澤正人委員長、三股浩光委員、万代昌紀委員の新任が報告された。併せて北川雄光副委員長の就任が報告された。
- ・庶務報告 会員数 13,137名（2017年3月22日時点）
- ・今年度の新規入会者数508名、退会者数121名、会員資格喪失者数412名が報告された。

### 3) 教育委員会報告（山口茂樹委員長）

- ・黒川良望委員長の退任および山口茂樹委員長、岩崎昭憲担当理事（呼吸器）、大須賀穰担当理事（婦人科）、小澤壯治担当理事（上部消化管）、笠間和典担当理事（肥満手術・結紮縫合）、金山博臣担当理事（泌尿器）、中村博亮担当理事（整形外科）、中村雅史担当理事（脾臓）、山高篤行担当理事（小児）、若林剛担当理事（肝臓）、金平永二委員の新任が報告された。併せて、各担当理事に2名ほど教育委員の追加を検討していることが述べられた。
- ・内視鏡下縫合・結紮手技講習会は今年度も12回の開催予定であることが述べられた。
- ・公認研究会1件、後援講習会33件が承認されたことが報告されるとともに、認定条件について今後教育委員会で議論していくことが述べられた。
- ・JSESによる内視鏡手術教育体制の確立計画が説明された。国内での内視鏡外科手術の安全性、根治性の担保を目的とし、各領域の代表疾患の手順書の作成や、ビデオクリニック、手術見学、手術立会いによる指導の検討、評価と見直し等の教育体制を確立していくことや、大腸領域で試験的に開始し、各教育担当理事や関連委員会と相談しながら策定していくことが述べられた。

#### 4) 用語集改訂委員会報告（羽渕友則委員長）

- ・渡邊昌彦理事長のご提案により、教育委員会から独立して用語集改訂委員会が設置されたこと、委員構成は引き続き検討していくことが説明され、これを議場に諮ったところ、異議なく承認された。
- ・本用語集は説明のみでなく、各用語のバックグラウンドの解説も含むものであり、継続して更新を図っていく旨が説明された。渡邊昌彦理事長より、日本医学会の用語集と齟齬のないよう進めていただきたいとの意見がなされた。

#### 5) E ラーニング検討委員会報告（池田徳彦委員長）

- ・寺地敏郎委員の退任および明樂重夫副委員長、板野理委員、遠藤俊輔委員、近藤幸尋委員の新任が報告された。併せて各科の委員を増員し、体制を強化していくことが報告された。
- ・若手医師にとって魅力あるコンテンツを作成していくこと、総会時の講演も教材とすること等の構想が述べられた。
- ・渡邊昌彦理事長より、技術認定制度にも E ラーニングを組み込むこと、ビデオクリップを閲覧することも申請条件にする等、関連委員会と連携して検討してほしいとの意見が述べられた。

#### 6) 学術委員会報告（猪股雅史委員長）

- ・寺地敏郎副委員長、板東登志雄委員、森川利昭委員、矢永勝彦委員の退任および白下英史委員、内田博喜委員、岩崎正之委員、江口晋委員の新任が報告された。併せて明樂重夫副委員長の就任が報告された。
- ・NCD 2017 年度研究課題応募について、厳正なる審査の結果、赤木智徳先生の「NCD データ活用による消化器外科手術（胃・大腸・胆嚢）に対する内視鏡外科手術の治療成績に関する施設間差の検討」を研究課題とすることが報告された。
- ・これまでの NCD 研究課題について  
2013 年度申請「腹腔鏡下胃切除術の安全性に関する検討 NCD による前向き調査研究」  
：論文投稿中であることが報告された。  
2014 年度申請「日本内視鏡外科学会技術認定制度における技術認定レベルのアウトカム評価」および 2015 年度申請「高齢者に対する腹腔鏡下手術の意義」  
：論文文化作業中であることが報告された。
- ・消化器外科データベース関連学会協議会においては、データ登録と audit について議論しており、主に肝臓と膵臓の前向き登録が安全に行われているか、どのくらい登録されているかを JSES 側として参加し情報共有をしていることが報告された。

#### 7) 国際委員会報告（中村雅史委員長）

- ・坂井義治委員長、太田正之委員の退任および中村雅史委員長、猪股雅史委員、大塚隆生委員の新任が報告された。併せて森俊幸副委員長の就任が報告された。
- ・今月ロシア内視鏡外科学会年次総会で開催される Japan-Russia Symposium for Endoscopic Surgery において、胃がんでは木下敬弘先生、大腸がんでは長谷川傑先生が派遣講師として講演を行うことが報告された。
- ・SAGES 2017 の JSES/SAGES Joint Panel について、鷺澤尚宏先生より内藤剛先生に演者が変更されたことが報告された。

- ・ EAES の Block membership については金平永二先生に調整いただいております、Japan Office の設立が不可となったことから、年会費は一括納入ではなく EAES 本部で個別徴収していただくこと、EAES 事務局手数料として5ユーロを別途徴収することが報告された。また、既存の EAES 会員は、個人年会費と Block member 年会費との差額および事務局手数料を負担いただくことで、2017 年より Block member 会員への変更が可能であることが説明された。2017 年 1 月時点で新規入会者数は 170 名となり、現在年会費支払い手続きを各会員に進めていただいていることが述べられた。
- ・ 渡邊昌彦理事長より、3 月に開催された IFSES Executive Board Meeting に渡邊昌彦理事長、山本学委員が出席したことが報告された。会議では、KSELS が IFSES に参加されたいというプレゼンが行われ、ELSA との整合性を考慮し、次回投票を行うこと、また南アフリカ等遠方からの参加者の旅費について議論されたことが報告された。
- ・ APMBSS が来年 3 月に東京ガーデンテラス紀尾井町で開催され、笠間和典委員が会長を、北野正剛名誉理事長が名誉会長を務められることが報告された。

#### 8) 保険委員会報告（森俊幸委員長）

- ・ 近藤幸尋委員、舟本寛委員、山縣正庸委員の退任および近藤英司委員、平泉裕委員の新任が報告された。併せてもう一名新任の委員を検討中であることが報告された。
- ・ 平成 30 年度診療報酬改正要望書の提出について、JSES からはロボット支援直腸手術、ロボット支援食道手術、3D 体腔鏡使用加算、腹腔鏡下骨盤内臓器全摘術、腹腔鏡下直腸切除・切断術兼側方リンパ節郭清術の計 5 件を提出すること、胃がんについては日本胃癌学会が主体となり要望書を提出することが報告された。併せて、聴聞会へはロボット支援直腸手術とロボット支援食道手術を出すことが報告され、承認された。
- ・ 厚生労働省からの「選定療養として導入すべき事例等」の提案・意見について、JSES では、選定療養に該当するものはない旨回答していることが報告された。
- ・ 坂井義治副理事長より、大腸領域について、腹腔鏡による大腸全摘手術が保険収載されていない点指摘がなされた。これを受け、岩中督理事より日本外科学会から提出される腹腔鏡手術の一括採用術式に含められる可能性があることが述べられ、瀬戸泰之先生と連携の上、手続きを進めていくことが確認された。

#### 9) 規約委員会報告（徳村弘実委員長）

- ・ 藤澤正人委員の退任および武中篤委員の新任が報告された。
- ・ 前回 12 月の理事会にて北野正剛名誉理事長、山下裕一監事より提案された理事・理事長の任期延長について規約委員会で検討され、他学会の事例を踏まえ、理事は社員または理事経験者から選任すること、理事の任期を 3 期から 4 期に延長すること、理事の上限年齢を 67 歳までとすることを骨子とし、変更案を堤顧問弁護士に検討いただくことが説明された。
- ・ 渡邊昌彦理事長より、理事の任期延長については、次回理事会および社員総会で審議にかけること、選挙制度については引き続き議論を行い、結論を出してほしい旨意見がなされた。

#### 10) 広報委員会報告（明樂重夫委員長）

- ・ 出沢明委員長、井坂恵一委員の退任および明樂重夫委員長、西井修委員、羽瀧友則委員の就任が報告された。併せて山田英夫副委員長の就任が報告された。

- ・12月開催の委員会議事録が確認され、広報委員会の主たる業務であるニュースレターの内容を協議したことが報告された。
- ・学会HPについては、1件のお知らせ掲載を行ったことが報告された。

#### 11) COI 委員会報告（山高篤行委員長）

- ・森川利昭委員長の退任および山高篤行委員長、福永哲副委員長、佐藤正人委員の新任が報告された。併せてもう一名委員の増員を検討している旨報告された。
- ・日本医学会から提示された診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンスについては、今後検討していくことが説明された。

#### 12) 医工学連携委員会報告（森川利昭委員長）

- ・石原美弥委員、牛久健司委員、杉本真樹委員、瀧口修司委員、松田年委員の退任および神崎正人委員、七戸俊明委員の新任が報告された。新任は領域や地域、年齢を考慮し、さらにもう一名増員を検討していることが述べられた。
- ・第29回総会医工学連携企画の実施報告がなされ、本企画を通して得られた情報は、検討の上、公共性のあるものは今後HPへの掲載を検討していることが説明された。併せて、第30回日本内視鏡外科学会総会に向け、企画委員会を編成し、準備を進めていくことが述べられた。
- ・EAESでも医工学連携委員会に相当する委員会があり、中島清一委員が同委員会の委員に選任されたこと、国際委員会の協力のもと、今後EAESと医工学連携分野においてより密に連携を進めていきたい旨説明された。
- ・関東経産局の協力の下、近畿経産局からの要請を受け第30回日本内視鏡外科学会総会での知的財産に関するジョイント事業の企画、特許庁の予算が下りたことが報告された。

#### 13) 技術認定制度委員会報告（坂井義治委員長）

- ・松田公志委員長、出沢明委員の退任および坂井義治委員長、中村博亮委員、中村雅史委員の新任が報告された。
- ・2016年度消化器・一般外科および小児外科領域の技術認定更新者リストが確認され、承認された。
- ・2017年度泌尿器・産科婦人科・整形外科領域の新規申請者および更新申請者のリストが確認され、承認された。
- ・今後、技術認定制度を専門医制度にどのように絡めていくか、教育委員会、専門医制度検討委員会と連携して検討していくことが報告された。

#### 14) メディカル・チーム検討委員会報告（岩崎昭憲委員長）

- ・メディカルスタッフマニュアルの改訂を進めており、ロボット支援手術や新しいエネルギーデバイスの項目を追加していること、また今年中に発行できる見込みであることが報告された。
- ・日本臨床工学技士会の手術関連の認定制度が開始される件について、JSESも協力を依頼されている点においては満場一致で承認された。

15) 専門医制度検討委員会報告（北川雄光委員長）

- ・森川利昭委員，金子弘真委員，出沢明委員，松田公志委員，北野正剛特別委員の退任および池田徳彦副委員長，渡邊聡明委員，松本守雄委員，市川智彦委員，渡邊昌彦特別委員の新任が報告された。
- ・新専門医制度について，日本外科学会では，サブスペシャリティ領域において，消化器外科，心臓血管外科，呼吸器外科，小児外科の4領域は2階部分を更新すると専門医も自動更新される一体型として運用すること，新たにサブスペシャリティ領域に追加された乳腺（内科，外科）と内分泌（泌尿器，耳鼻科，外科）は自動更新されないことが決定され，積極的に運営していくこと，その他の領域は議論が進んでいないことが報告された。JSESのそれぞれの領域をどう位置付けるか，また専門医制度を積極的に取り扱っていくか理事会で審議していく必要がある旨述べられた。

16) 第三者評価委員会報告（岩中督委員長）

- ・森俊幸副委員長，仁尾正記委員の退任および佐々木章委員，八重樫伸生委員の新任が報告された。併せて河野匡副委員長の就任が報告された。
- ・医療事故調査外部委員派遣について要請があり，小澤壯治理事に対応いただいていること，現在調査を進めていることが報告された。

17) 倫理・渉外委員会報告（羽瀧友則委員長）

- ・額川晋委員，片井均委員，西井修委員，藤本隆夫委員の退任および羽瀧友則委員長，三股浩光委員，金子弘真委員，吉澤穰治委員の新任が報告された。併せて岩崎昭憲副委員長の就任が報告された。
- ・5月に開催される第3回研究倫理教育研修会に山高篤行理事に出席いただく予定であることが報告された。

18) 将来構想委員会報告（渡邊昌彦委員長）

- ・寺地敏郎委員長の退任および渡邊昌彦委員長の新任が報告された。委員構成については検討中である旨述べられた。
- ・規約委員会や技術認定制度委員会と連携して構想を練っていくことが説明された。

19) 大上賞選考委員会報告（渡邊昌彦委員長）

- ・委員構成について現在検討中であることが報告された。

20) 出月賞選考委員会報告（大須賀穰委員長が欠席のため渡邊昌彦理事長より代理報告）

- ・森俊幸委員長，森田峰人委員の退任および大須賀穰委員長，田端実委員の新任が報告された。併せて奥田準二副委員長の就任が報告された。

21) 第30回総会準備状況報告（坂井義治会長）

- ・現在のプログラム案が報告され，「30年後の手術を妄想する」をはじめ，5つの特別企画を計画していること等が紹介された。

22) 第 31 回総会準備状況報告 (岩崎昭憲次期会長)

- ・ 4 月中にプログラム委員の就任依頼を行う予定であること、ポスターが完成したことが報告された。

23) 第 32 回総会準備状況報告 (小澤壯治次々期会長)

- ・ 会期は 2019 年 12 月 5 日 (木) ~ 12 月 7 日 (土)、会場はパシフィコ横浜、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル、横浜東急ベイを予定していることが報告された。

24) ガイドライン委員会報告 (渡邊聡明委員長)

- ・ 宗田大委員の退任および遠山晴一委員、三股浩光委員の新任が報告された。併せて中村雅史副委員長の就任が報告された。
- ・ 昨年 12 月の委員会では、2019 年改訂のガイドラインの対象者、術式の範囲、推奨度について方針が決定したことが報告された。推奨度は Minds 2014 に準拠する方針であるが、前回の改訂版と異なり GRADE システムを導入するため、5 月 20 日に開催するガイドライン説明会にて具体的な作業について、また文献検索について進め方を確認していくことが報告された。

25) 日本医学会等・その他報告 (渡邊昌彦理事長)

- ・ 松本純夫連絡委員、黒川良望用語委員の退任および坂井義治連絡委員、羽渕友則用語委員の新任が報告された。
- ・ 第 84 回日本医学会定例評議員会、日本医学会連合臨時総会の開催および第 8 回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・第 8 回シンポジウムの開催について報告された。
- ・ ICD-11 開発にかかる WHO からの意見募集について日本医学会より協力要請があったことが報告された。
- ・ JSES とロシア内視鏡外科学会におけるトレーニング連携に関する覚書締結、および、日本臨床工学技士会の平成 29 年度「手術関連指定講習会」後援名義使用許可の承認が確認された。

3. 審議事項

1) 財務委員会 (小澤壯治委員長)

- ・ 池田徳彦委員の新任が報告された。
- ・ 次回から前年度の予算額も報告することとなった。
- ・ 会誌出版費の支出が高額である点指摘がなされ、今後オンラインジャーナル化のみとするか編集委員会で検討していくことが確認された。
- ・ 技術認定のビデオクリップ配信について、配信数や費用について改めて見直す必要があるのではないかと意見が出された。
- ・ 技術認定関連収入については、申請者の増加に伴い収入も増加する点を修正の上、小澤壯治委員長、渡邊昌彦理事長へ報告することが確認され、その他の 2017 年度補正予算が承認された。
- ・ 2 月 7 日、8 日の 2 日間で税務調査が行われたことが小飯田浩伸顧問税理士より報告された。平成 25 年度から 27 年度までの 3 年度間が調査対象となり、共催セミナーに対する課税や学術集会の消費税に関する議論がなされた。最終的には、出版者著作権管理機構の複写使用料収入とワイリーのロイヤリティ収入が収益事業に該当するのではないかと指摘を受け、修

正申告を受け入れた場合は、追徴税と延滞料を合わせて 140 万円程になることが説明され、修正申告を進めることが承認された。

2) 評議員選考委員会（塩田充委員長）

- ・寺地敏郎委員の退任が報告された。
- ・評議員資格失効予定者 9 名のリストが確認され、承認された。
- ・評議員数についてはまだ上限に余裕があるが、領域のバランスが悪く、一人の評議員が多数の委員会を掛け持つ等負担が増えていくことが懸念され、今後は正が必要であるとの意見がなされた。

3) ロボット支援手術検討委員会（橋爪誠担当理事）

- ・寺地敏郎委員、板東登志雄委員、堀口明彦委員、吉岡邦彦委員の退任および金山博臣委員、渡邊聡明委員、中村雅史委員、武中篤委員、万代昌紀委員、寺島雅典委員の新任が報告された。
- ・保険適応外ロボット支援手術の前向きレジストリー制度導入について、JSES 主導で実施していくことが提案され、承認された。システム構築については、条件により費用が変動するため、今後 NCD との協調なども考慮に入れ検討していくことが説明された。登録の対象領域には、泌尿器科、産科婦人科、呼吸器外科も含めることとし、心臓血管外科、耳鼻咽喉科は要検討とする点も議論がなされた。

4) 第 33 回日本内視鏡外科学会総会会長推戴について（渡邊昌彦理事長）

- ・猪俣雅史理事が推戴され、満場一致で承認された。

5) その他

- ・黒川良望監事より、定款の改定については総会での決議となるため、事前に十分な説明や情報開示をすることが重要であること、財務についてはコスト削減だけでなく新規事業にも積極的に取り組んでいくこと、評議員については領域別の評議員数のアンバランスを早急に是正するよう意見がなされた。
- ・次回の理事会より、審議事項を先にし、その後報告事項に入ることが確認された。

以上